



3学年の授業 【資料】 ①『わたしのいもうと』 松谷 みよ子 ②「3つの脳」

【資料の概要】

① 妹は転校した小学校で理不尽ないじめにあいます。「言葉がおかしい」「跳び箱がとべない」「配った給食を誰も受け取ってはくれない」……。そしてとうとう、妹の体にたくさんのあざが見つかりました。やがて、妹は学校へ行かなくなりました。

時は流れ、妹をいじめた子供たちは中学生、高校生へと楽しく元気に成長していきました。しかし、妹は違います。あれ以来、ずっと部屋に閉じこもったままです。

そしてある日、妹はひっそりと亡くなりました。

② 人間の脳は大きく「3つの脳」でできています。いじめによって「ヘビの脳」が大きなダメージを受け、相手の「生きる力を奪う」ことを学びました。

《授業の感想》

- 「いじめ＝殺人」ということに納得しました。この考えを一人でも多くの人にわかってほしいです。
- いじめは相手の大切な生きるということを傷つけ、相手の自由で楽しい人生をめちゃくちゃにしてしまうことなのだと思った。そして、いじめた本人たちはすっかり忘れて、楽しく人生を過ごしている残酷なものだと思った。人の人生をこわすような、その人の家族の人生まで壊すような、そんないじめは絶対しないし、勇気を出して止められる人になりたいと思った。
- 「いじめ＝生きる力をなくす＝殺人に等しい」ということを知りました。今までは（いじめにあっても）私は絶対に死なないと軽く考えていました。でも今は違います。いじめられたら生きる力がなくなってしまうと思うと、やっぱり怖い気持ちになります。・・・いじめを見ていて言わないのは、人を殺しているのを見ていたのに何も言わないのと同じだと思いました。
- 今までいじめについてそこまで深く考えたことはなかったので、とても嫌だと思った。いじめた人にとっては集団でやっていることであったり、すぐに忘れてしまったりするけれど、いじめられた人はずっと覚えているということを忘れてはいけないと思いました。
- 中学生までずっと同じメンバーだけど、来年から高校へ行きます。そこで「いじめ」のこととかがすごく心配で、知らない人たちの中で友達ができるか生活していけるか心配です。そこまで追い込まれる前に、・・・自分だったら相談をし、他の人だったら助けたいと思いました。

●「イソップ物語」より

池のカエルが子供に叫びます。

「お願いだから石を投げないで！あなたたちには遊びでも、わたしには命の問題だから。」